

令和7年度 第1回岡山県入札・契約適正化委員会 議事概要

開催日時・場所	令和7年7月30(水) 13:30~15:45 ピュアリティまきび		
出席委員	高橋 正徳(元岡山大学准教授):委員長、 難波 秀明(弁護士)、石田 麻衣(弁護士)、鳥越 貞成(公認会計士) 上田 恭嗣(建築士) 以上5名 出席		
議事内容	審議対象期間:令和6年10月1日~令和7年3月31日		
1 談合情報の取扱状況について	審議対象期間の談合情報について、該当がなかった旨を報告した。		
2 指名停止の状況について	審議対象期間の指名停止案件について、該当がなかった旨を報告した。		
3 抽出事案の説明及び審議	県の発注工事の中から、委員が事前に抽出した5件(7工事)について、発注部局からの説明の後、委員による審議を行った結果、5件全てについて適正に入札・契約がなされているものと判断された。		
工事名	入札方式	契約金額 (千円:税込)	発注機関
①単県 道路工事(護岸工)	一般競争入札 (条件付)	59,730	備中県民局建設部 井笠地域工務課
②公共 砂防工事(堰堤工)	一般競争入札 (条件付)	45,100	備中県民局建設部 井笠地域工務課
③公共 砂防工事(垂直壁工)	一般競争入札 (条件付)	78,210	備中県民局建設部 高梁地域工務課
④(1)公共 漁港工事 (防波堤基礎工)	指名競争入札	37,730	備中県民局建設部 井笠地域工務課
④(2)公共 海岸工事 (護岸工その1)	指名競争入札	32,890	
④(3)公共 漁港工事 (防波堤基礎工)	指名競争入札	38,720	
⑤農村整備事業(農道・集落 道整備)舗装補修(その11) 工事	指名競争入札	11,627	備中県民局農林水産事業部 高梁地域農地農村整備室
4 委員からの意見・質問、その回答	次のとおり		
5 委員会による意見の具申又は勧告	なし		

委員からの意見・質問、それに対する回答等

議事の概要／各委員の質問・意見	回答概要など
1 談合情報の取扱状況について 意見等、特になし	
2 指名停止の状況について 意見等、特になし	
3 抽出事案の説明及び審議	
①単県 道路工事（護岸工）	
<p>一般競争入札において高落札率割合が高い井原市の工事から抽出した。その中でも当該工事の落札者は、高い落札率で複数の工事を落札した実績があったため、同じ落札者の工事のうち、最も契約金額が高い本工事を抽出した。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 入札結果は、入札者のうち落札可能だったのは1社のみで、他の入札者は予定価格を超えたため落札資格がなかった。この工事は積算価格の一致が難しく、予定価格を上回りやすい要素があったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 汎用資材を用いる護岸工事で、一般的な工事という認識である。 予定価格付近に応札が集中している状況があるが、近年の資材高騰などを踏まえ、最新の単価を適用して積算を行っており予定価格としては適正なものであると考えている。
<ul style="list-style-type: none"> 今回の工事が珍しい工事ではないとのことだが、備前エリアなどは、最低制限価格付近の争いになるが、井笠地域では予定価格付近の入札結果になることについて把握している要素があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な要素は把握していないが、各入札業者においては、工事を行う地域の地理的要因や資材の搬入先や方法など様々な要素を含めて実際の積算を行い、自社の利益を考慮して、最終的な実行予算で応札した結果であると思う。
<ul style="list-style-type: none"> 市町村発注工事について、県と市町村が情報交換して、各市町村のエリアの状況把握はされていないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国と県と市町村で発注者協議会を立ち上げ、年2回程度、市町村の担当者と情報交換を実施しており、その中で、入札制度などの問題点について情報共有を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> 協議会の中で、井原、矢掛エリアの市町の発注する工事について、県工事と同様に落札率が高いとか、それとも全然違うとか、何らかの特徴について把握していないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に4～6月は工事発注が少ない時期だが、工事の平準化を進めて行く中で、井原市の担当からは、4～6月は農作業が忙しく、業者も工事が少ない方がありがたいとの意見があると聞いており、発注者協議会の意義を感じているところだ。
②公共 砂防工事（堰堤工）	
<p>一般競争入札において高落札率割合が高い井原市の工事から抽出した。その中でも、99.8%という最も落札率の高い本工事を抽出した。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 最低制限価格を下回った応札はあったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 最低制限価格を下回った者はいない。応札した9者のうち、予定価格から、最低制限価格内に収まっているのは落札業者1者のみであった。

<ul style="list-style-type: none"> ・落札業者以外は、予定価格を上回った応札結果となっている。事業者はかなり正確に積算できると聞いているが所見はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単純に積算した結果だけでなく、業者それぞれに手持工事や技術者の確保、資材購入方法、人手の多寡など状況が異なる中で、実行予算を積み上げた結果をもって、応札を行っていると思慮される。その結果として、予定価格を超過した応札となったのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・積算価格を実行予算が上回っているとわかって業者が応札していると推測されるが、その意図は何だと考えるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・断定的な回答はできないが、今回の対象工事は生コンを大量に使用した工事であるが、資材価格が高騰しており、積算に用いる価格を反映するまでに3ヶ月を要するなどタイムラグが発生している。建設業協会からもタイムラグを少なくすような要望がある。今回のケースもこうした要因も影響しているのではないかと推測できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の案件も①の案件もどちらも有効な入札が事実上1者だけだ。こうした入札は、井原地域では頻繁にあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月以降では、知りうる限り1例あったと記憶している。
<ul style="list-style-type: none"> ・土木工事では人手が不足しており、下請けや協力会社にも繋げてデータを調査するなどしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今は下請も元請も働き方改革なども含めて経費もかかる状況だ。契約になれば価格で折り合わないこともあると考える。また、元請が、下請契約した工事については、発注者も状況を把握している。
③公共 砂防工事（垂直壁工）	
<p>一般競争入札において高落札率割合が井原市に次いで高い高梁市の工事から抽出した。その中でも、99.8%という最も落札率の高い本工事を抽出した。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・本案件も生コンを使う工事だが、案件②とは異なり、複数の価格に複数者が応札しているがこうした応札はよく見られるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業者の積算精度が高まっているため、予定価格付近に応札額が集中するパターンも見受けられる。 ・複数の価格に応札が集中した場合は、県の積算に違算があったのではないかと危惧することもある。
<ul style="list-style-type: none"> ・最低制限価格や予定価格は業者の適正な利益を考慮した上で、計算上決まっていると考えてよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業者の利益率を積算で加味するものではなく、資材単価や労務費や経費を積み上げて算出したものである。
<ul style="list-style-type: none"> ・理論上は最低制限価格だと利益はゼロになるというケースも出てくるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国は公契連モデルを元に調査基準価格を決めている。県もこれを参考に独自に最低制限価格を算定している。
<ul style="list-style-type: none"> ・入札者数の目標などを示したガイドライン等があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県では平成19年にガイドラインを策定している。そこでは、理想的にはエリアごとの発注とし、1エリア30者を一つの指標としているが、エリアによって多寡は発生している。
④(1)公共 漁港工事（防波堤基礎工） (2)公共 海岸工事（護岸工その1） (3)公共 漁港工事（防波堤基礎工）	
<p>指名競争入札において高落札率割合が高い浅口市の工事から抽出した。同じ落札者が落札している複数の工事を見比べて検討したいと思い、3工事を一括して抽出した。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・今回の3工事は、Cランク以上の業者を指名できる工事にもかかわらず同じ6者を指名している理由は何か。 ・この6者を指名する頻度は多いのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工エリアの井笠管内で海の工事ができるCランク以上の業者は4者に限られており、これに児島・水島方面で実績のある2者を加えて6者を指名している。指名した業者については、防波堤工、護岸工の実績がある。 ・管内の海の工事は、年間5～10件程度だが、この6者を指名することになる。
<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷エリアでは、最低制限価格付近で応札する傾向があるが、倉敷エリアの2者も予定価格付近での応札となっており、入札予定価格が安価となっている可能性はないか。 ・最近是人件費や資材も高騰し続けている状況で、積算単価の反映には3月程度係ると言う説明であったが、業者としては予定価格内で応札することがリスクを負うことになるのではないか。その結果、応札者がいなくなるのではないか。現状の積算価格が安すぎると危惧している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定価格の算定については、資材や労務費は最新のものを適用し、標準的な施工ごとに必要な経費を積算基準により算定している。業者は施工の段取り面でも工夫を凝らしている。海工事は、陸上工事以上に、様々な要因が関係しており、非常に厳しい状況にあるため、高水準になるという現状はあるように思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の工事の一つで、6者のうち3者が辞退しているが一般的に多いと考えて良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の工事は、6者中3者が辞退しているが、他の案件だと15～20者中1～2者が辞退するようなケースは見受けられる。今回の場合、数字だけみれば辞退率は高いといえる。 ・補足として、海の工事では漁協との調整が重要で、他のエリアの業者だと調整が難しいと考えるケースもあるようだ。
<ul style="list-style-type: none"> ・辞退回避のためにも、発注時期を早めることはできなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の工事は、漁協や関係者との調整や、特殊工事のため歩掛かりの見積もりの徴取など必要な手順を踏んで行ったものだ。
<p>⑤農村整備事業（農道・集落道整備） 舗装補修（その11）工事</p>	
<p>指名競争入札において高落札率割合が浅口市に次いで高い高梁市の工事から抽出した。指名競争入札において複数の工事を落札している落札者の工事のうち、金額の高い方を抽出した。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・現高梁市は旧高梁市と旧4町が合併しているが、高梁エリアでは、現場のある地域の業者が落札する傾向がある。今回案件も同様だ。現場のある地域以外の業者が落札した事例はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去のものわからないが、今年度においては、委員のご指摘から外れる事案は記憶にない。

<ul style="list-style-type: none"> 農林の工事では、地元の業者が入札に強くなる理由があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 業者指名については、県内の指名要領に基づいて行っており、農林も土木も差はないと考えている。入札でどの業者が落札したのかといった個別の理由まではわかりかねる。
<ul style="list-style-type: none"> 地域や企業規模によっても差があると思うが、生成AIなどを使った積算や工事管理などの状況を知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定価格の算定には活用できないのではないかと思うが、工事の施工に当たっては、ICTの活用が可能な制度となっており、大きな工事では、地方においても、ICTの導入が進んでいくと考えている。
<p>6 その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	